

[年度]平成21年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名] ウンシュウミカンに発生したタヌキによる果実食害

[要約] タヌキによるウンシュウミカン果実の食害が確認される。ウンシュウミカン成熟果実が少ない時期、被害が集中して目立つ。タヌキは夜間出没し、地上から80cm台以下の果実を口で噛んで引きちぎる。被害樹の周りに果肉の付着しない果皮が散乱する。

[キーワード] 鳥獣害、タヌキ、食害、ウンシュウミカン、果実

[担当] 果樹試験場 環境部

[連絡先] 電話 0737-52-4320

[部会名] 果樹部会

[分類] 指導

[背景・ねらい]

タヌキによるカンキツ類の被害は県内で発生しているものの、その詳細は明らかとなっていないこともあり被害が表面化しにくい傾向にある。そこで、それら被害形態について明らかにするため、2009年10月、12月に有田川町で発生した、ウンシュウミカンの果実食害について調査する。

[成果の内容・特徴]

1. 10月前半に極早生ウンシュウ（日南1号）、12月前半に収穫せず残している早生ウンシュウ（宮川早生、田口早生）と普通ウンシュウに被害が確認される。10月後半～11月に被害が確認されないのは、生産量の多い早生ウンシュウの果実成熟時期にあたるため、被害が分散し目立たない。ウンシュウミカンの成熟果実が少ない時期は、食害が特定の樹に集中するため、被害が目立つ。
2. タヌキは日没～日出間に出没しウンシュウミカン果実を食害している（図1）。
3. タヌキは設置されている電気柵（下段地上高20cm）をくぐって、園地に入る。
4. 果実を口で噛んで引きちぎるため、果皮の一部が花こうに残る（図2）。果実は啜えたまま少し移動してから果肉をきれいに食べる（図3）。そのため被害樹の周り（およそ5m内）に果皮が散乱する（図4）。
5. 被害果実の平均地上高は47cmで、すべて80cm未満である（図5）。撮影されたタヌキの体格（推定体長60cm、推定体高40cm）から、地上からの加害と考える。

[成果の活用面・留意点]

1. 被害形態からタヌキによるウンシュウミカン果実の食害が判別できる。
2. 実際には、タヌキによる被害はサル等他の獣類の被害と誤認されるケースがある。
3. モモなど地上から口の届かないものは、樹上に登って食害する。
4. イノシシ・シカ用電気柵では体格の小さいタヌキの侵入を防ぐ効果が低いが、タヌキも含めた多獣種に対応した電気柵が開発されているため状況に応じて設置する。

[具体的データ]

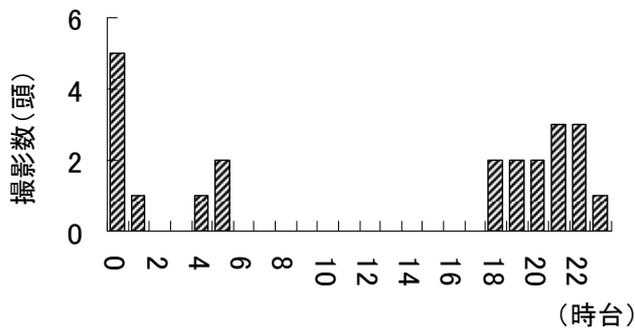


図1 被害発生園地内におけるタヌキの時間別撮影頭数 (有田川町奥)

※ 撮影機材：赤外線センサーカメラ

(Game Spy I40、Moultrie Feeder 社製)

撮影期間：10月9～12日 12月4～14日

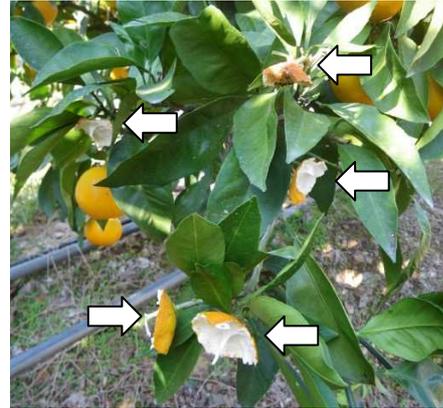


図2 タヌキによる果実被害部位 (果皮の一部が花こうに残る)



図3 果実をくわえて移動するタヌキ



図4 タヌキによる食害で散乱する果皮

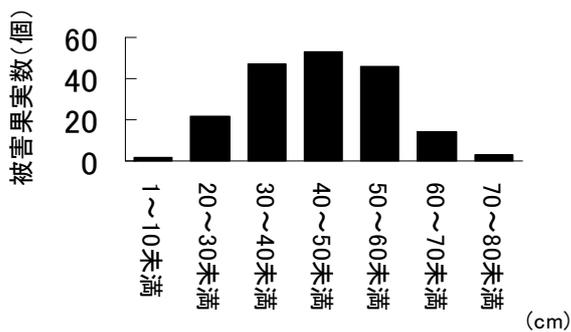


図5 タヌキによる食害果実の地上高

※ 着果位置の地上高を計測

食害前は果実重量により地上高は若干低い

[その他]

研究課題名：農作物鳥獣害防止技術実証

予算区分：県単

研究期間：平成 21～23 年度

研究担当者：法眼利幸、横谷道雄、山本浩之、井沼 崇、増田吉彦

発表論文等：なし

HP 掲載の可否：可